

2022(令和4)年度の県内の温室効果ガス排出量(速報値)がまとまりました

- 県では、地球温暖化対策の進捗状況を把握するため、毎年度、県内の温室効果ガス排出量の推計を行っています。
- 2022年度の県内の温室効果ガス排出量は、2,110万t-CO₂(速報値)であり、前年度比で4.0%減少、基準年(2013年度)比25.5%減少となりました。また、森林吸収量との合計は2,022万t-CO₂(速報値)で、基準年の排出量に比べ約29%減少となりました。

 温室効果ガス排出量(部門ごと)(単位:万t-CO₂)(注1)(注2)

温室効果ガス	(基準年) 2013年度 (H25)	(前年) 2021年度 (R3)	前年度からの 変化率	(最新年) 2022年度 (R4) (基準年比)
	2,831	2,198		→ -4.0% →
二酸化炭素	2,594	1,937	→ -4.5% →	1,849 (-28.7%)
産業部門	814	608	→ -2.8% →	591 (-27.4%)
業務部門	459	322	→ -6.6% →	301 (-34.6%)
家庭部門	484	302	→ -4.8% →	288 (-40.5%)
運輸部門	491	402	→ -0.6% →	399 (-18.7%)
その他部門	345	303	→ -10.7% →	270 (-21.8%)
その他ガス	237	261	→ -0.2% →	260 (+10.0%)
森林吸収量(注3)		—		88
排出量と森林吸収量合計値		—		2,022 (-28.6%)

(注1) 四捨五入のため合計値が合わない場合があります。

(注2) 排出量のデータは、様々な統計資料をもとに推計しており、必要な資料が概ね2年後に出揃った上でとりまとめ、公表しています。統計資料が過去にさかのぼって修正された場合、国のマニュアルが変更された場合には、公表済であった過去の排出量もあわせて修正しています。

(注3) 林野庁による本県の森林吸収量(参考値)です。

<前年度からの排出量の減少の主な要因>

- ・産業部門：部品調達難の影響を受けた金属製品工業をはじめ、多くの業種で前年の生産を下回ったことにより、電力消費に伴う排出量が減少。
- ・業務部門：電力消費量の減少、電力のCO₂排出係数*の減少により電力消費に伴う排出量が減少。
- ・家庭部門：冬季が前年度より暖かく、灯油・都市ガス等の消費量が減少。
- ・運輸部門：航空機の燃料消費量が増加した一方、自動車等の燃料消費量が減少。
- ・その他部門：工業プロセス分野(セメント製造等)における排出量が減少。
- ・その他ガス：ハイドロフルオロカーボン類(冷凍空調機器の冷媒)が増加傾向から横ばいに変化。

*電力のCO₂排出係数：電力会社が1kWhの電気を作り出す際に排出したCO₂量を表す指標値

本件についてのお問い合わせ先
 環境政策課カーボンゼロ推進室 渡辺、田中
 (直通) 025-280-5150